

フランスを中心とする欧州のコンテンツ市場調査  
(2013 年)  
映画編

2014 年 7 月

日本貿易振興機構(ジェトロ)

本報告書に関する問合せ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）  
コンテンツ産業課

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL： 03-3582-1671

FAX： 03-5572-7044

E-mail： CID@jetro.go.jp

## 【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

## 目次

1	欧州における映画市場の動向	1
1-1	2013年、EUの観客動員数は9億800万人、低水準を記録	1
1-2	2013年、EUの多くの国で興行収入が減少	1
1-3	2013年、EU各国で自国映画の市場占有率が最も高かったのはフランス	3
1-4	2012年にEUでヒットした映画	3
1-4-1	好調なシリーズ映画	3
1-4-2	米国と共同製作の英国映画が大ヒット、EUにおける欧州映画の存在感増す	3
1-4-3	フランス映画「最強のふたり」が国外でも大健闘	4
1-5	2012年、EUの主要製作国の大部分で平均製作予算が減少	8
1-6	映画館スクリーンのデジタル化は最終段階入り、最多はフランス	8
2	フランスにおける映画市場の動向	9
2-1	2013年、フランスの観客動員数は前年比5.3%減	9
2-1-1	2013年、観客動員数に占める割合で米国映画がフランス映画に大差	9
2-1-2	2013年、フランスで500万人以上を動員した大ヒット映画はなし	10
2-2	2013年にフランスで製作された映画は270本、減少するも高水準を維持	10
2-2-1	2013年のフランス主導映画、製作本数は横ばい、投資額は減少	10
2-2-2	2013年、フランスにおける外国との共同製作映画は13本減少	12
2-3	2013年、フランスの映画館スクリーン数の96.2%がデジタル化	12
2-4	クリスマス休暇には観客数に占める子供連れ世帯の割合が増加	12
2-5	2013年、日本映画としては「キャプテンハーロック」が健闘	13

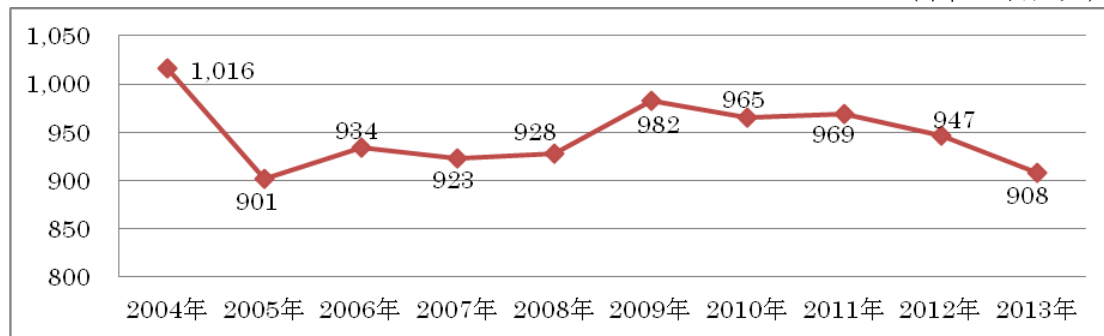
## 1 欧州における映画市場の動向

### 1-1 2013年、EUの観客動員数は9億800万人、低水準を記録

欧州視聴覚研究所（OEA）の2014年2月14日の[発表](#)によると、2013年にEUにおける観客動員数は9億800万人（前年比4.1%減）と過去10年に遡っても2番目に低い水準を記録した（図表1参照）。

図表1：EUにおける映画館観客動員数

（単位：百万人）



出所：欧州視聴覚研究所（OEA）2014年2月14日付け[発表](#)

注1：新規加盟国を考慮した推計値

注2：2013年は暫定値

観客動員数が増加したのは、2013年の暫定値が発表されたEU26カ国（図表2参照）中8カ国のみであった。EUにおける観客動員数が全体で減少したのは、観客動員数の上位5カ国（仏、英、独、西、伊）のうち4カ国が大幅減となったため。スペインが16%減、フランスが5.3%減、英国が4%減、ドイツが4%減であった。イタリアだけは6.6%増であった。中・東欧においては、ブルガリア（16.7%増）、ルーマニア（13.8%増）、リトアニア（6.8%増）で増加し、観客動員数が増加した。

### 1-2 2013年、EUの多くの国で興行収入が減少

欧州視聴覚研究所（OEA）の2013年5月7日の[発表](#)によると、2012年には観客動員数の減少にもかかわらず3D映画の公開に伴い入場料が値上がりしたため（2012年の平均は6.90ユーロ）、EUにおける2012年の興行収入は64億7,000万ユーロ<sup>1</sup>に達し、2011年から2年連続で最高記録を更新した。

しかし2013年にEUにおける映画館の興行収入は、暫定値が出た25カ国のうち14カ国で減少した（図表2参照）。25カ国中19カ国で映画館の入場料が値上がりしたものの、2010～12年とは異なり、それによって観客動員数の減少を補うことができなかった。

<sup>1</sup> 2013年5月7日発表時点の暫定値であるため、図表2の2012年の興行収入と一致しない。

図表 2 : EU における映画館観客動員数と興行収入  
(2012-2013 年、2013 年の観客動員数が多い順)

国\年	観客動員数 (百万)			興行収入 (百万)				自国映画市場 占有率 (注 2)	
	2012	2013	2013 前年比	通貨	2012	2013	2013 前年比	2012	2013
フランス	203.6	192.8	-5.30%	ユーロ	1305.6	-	-	40.30%	33.30%
英国 (注 3)	172.5	165.5	-4.00%	ポンド	1099	1083	-1.50%	32.10%	21.50%
ドイツ	135.1	129.7	-4.00%	ユーロ	1033	1023	-1.00%	18.10%	26.20%
イタリア ※	100.1	106.7	6.60%	ユーロ	637.1	646.3	1.40%	26.50%	31.00%
スペイン ※	94.2	79	-16.10%	ユーロ	614.2	510.7	-16.80%	17.00%	13.90%
ポーランド	38.5	36.3	-5.70%	ズロチ	711.3	665.2	-6.50%	16.10%	19.90%
オランダ	30.6	30.8	0.80%	ユーロ	244.6	249.4	2.00%	14.20%	20.50%
スウェーデン	18.4	16.6	-9.60%	クローネ	1815.7	1643	-9.50%	22.10%	24.80%
オーストリア ※	16.4	15.7	-4.20%	ユーロ	131.9	131	-0.60%	1.70%	4.00%
デンマーク	13.6	13.6	-0.20%	クローネ	1053.4	1051.8	-0.20%	28.70%	30.00%
ポルトガル	13.8	12.5	-9.40%	ユーロ	74	65.4	-11.50%	5.30%	3.40%
チェコ	11.2	11.1	-1.10%	コルナ	1275.6	1424.2	11.70%	24.30%	24.2%
ハンガリー ※	9.5	9.7	2.20%	フォリント	12000	12900	7.50%	1.50%	1.50%
ルーマニア ※	8.3	9.5	13.80%	レウ	144.8	168	16.00%	3.60%	3.20%
ギリシャ ※	10.1	9.2	-9.00%	ユーロ	70.2	59.3	-15.50%	6.90%	7.20%
フィンランド	8.4	7.8	-7.00%	ユーロ	78.8	76	-3.60%	28.10%	23.00%
ブルガリア	4.1	4.8	16.7%	レフ	34	39.8	17.30%	4.80%	0.60%
クロアチア	4.1	4	-1.60%	クーナ	111.9	121	8.10%	8.60%	11.10%
スロバキア	3.4	3.6	4.80%	ユーロ	17.5	18.8	7.10%	3.10%	4.50%
リトアニア	3	3.3	6.80%	リタス	40.6	45.4	11.90%	2.80%	16.50%
エストニア	2.6	2.6	-1.10%	ユーロ	11.4	11.8	3.30%	7.60%	5.90%
ラトビア	2.3	2.4	4.00%	ラツツ	6.9	7.2	5.70%	4.10%	4.00%
スロベニア	2.7	2.3	-16.10%	ユーロ	12	10.6	-11.70%	4.80%	10.70%
ルクセンブルク ※	1.3	1.2	-3.90%	ユーロ	9.4	9.1	-3.40%	-	-

マルタ※	0.7	0.7	-6.90%	ユーロ	4	3.7	-7.00%	-	-
キプロス ※	0.8	0.6	-24.40%	ユーロ	6.3	4.9	-22.50%	-	0.10%
ベルギー ※	21.9	-	-	ユーロ	158.8	-	-	-	-
アイルラ ンド	15.4	-	-	ユーロ	108.3	-	-	1.50%	-
EU28 カ 国合計※	947	908	-4.10%	ユーロ	6 569	-	-	-	-

出所：欧州視聴覚研究所（OEA）2014年2月14日付け[発表](#)

注1：2013年は暫定値。※マークは推定値。

注2：ベルギーと英国を除き、観客動員数に基づく。フィンランド、ハンガリー、スウェーデンを除き、自国がより低い出資率かつ/あるいは製作上の主導権を持たなかった共同製作映画も含む。

注3：英国の「自国映画市場占有率」は、自国がより低い出資率かつ/あるいは製作上の主導権を持たなかった共同製作映画も含めた、2014年1月19日までの劇場興行収入に基づく。

### 1-3 2013年、EU各国で自国映画の市場占有率が最も高かったのはフランス

2013年、EU各国における自国映画の市場占有率<sup>2</sup>は、2013年の暫定値が出た26カ国中では13カ国で増加し、10カ国で減少した。フランスにおけるフランス映画の市場占有率は過去10年で最低の33%であったが（図表8参照）、前述の26カ国の中では最高であった。自国市場における自国映画の占有率がフランスに続いて高かったのは、イタリア（31%）、デンマーク（30%）、ドイツ（26%）であった。同年のEU各国における米国映画の市場占有率については、2013年の暫定値が出た13カ国中11カ国における平均が前年の63%から68%へ増えた。

### 1-4 2012年にEUでヒットした映画

#### 1-4-1 好調なシリーズ映画

2012年にEUにおける観客動員数で首位となったのは、「007」シリーズの最新作で英米による共同製作映画の「007 スカイフォール」で約4,400万人であった。これにやや差がついて米国映画の「アイス・エイジ4 パイレーツ大冒険」が2位、「ダークナイトライジング」が3位入りした（図表4参照）。この3本を含め、2012年の観客動員数上位25本のうち10本はシリーズ映画であり、シリーズ映画の底堅い人気を示された。

#### 1-4-2 米国と共同製作の英国映画が大ヒット、EUにおける欧州映画の存在感増す

米国映画は依然、EU市場での圧倒的優位を示している。2012年、EUにおける観客動員が多かった上位25本の映画のうち22本は米国映画だった。さらにEUでの観客動員数に占める米国映画の割合は62.8%と、2011年の61.8%をやや上回った（図表5参照）。

米国映画の勢いにおされ、欧州映画がEUでの観客動員数に占める割合が30%の台に乗ることは長らくなかったが、2012年には33.6%に達した（図表3のC参照）。これは前年比5.6%増であったが、増加数はほぼ「007 スカイフォール」の観客動員数に相当した。

<sup>2</sup> 図表2の注2および注3参照。

英米の共同製作によるこの映画は、米国大手スタジオ（MGM）の強力な支援を受けたが英国側の資本比率が上回ったため、欧州映画としてカウントされた。2012年のEUでの欧州映画の観客動員数は、「007 スカイフォール」が牽引して前年比12%増の約3億1,300万人となった。

この影響で、米国資本を投じて欧州で製作された映画がEUでの観客動員数に占める割合は、2011年の8.1%から2012年には2.1%に減少した(図表3のBおよび注3参照)。

図表3：EUでの観客動員数に占める製作国・地域別映画の割合

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
(A) 米国	65.5%	67.0%	68.4%	61.8%	62.8%
(B) 米国資本を投じ欧州で共同製作された映画(注3)	4.4%	4.1%	5.0%	8.1%	2.1%
(C) 欧州(注4)	28.4%	26.4%	24.9%	28.0%	33.6%
仏	12.3%	8.8%	9.3%	10.0%	13.6%
英	2.3%	3.8%	2.8%	3.8%	8.0%
伊	3.6%	2.7%	3.8%	4.4%	2.9%
独	3.6%	4.2%	3.1%	3.6%	2.8%
(D) その他の欧州	0.4%	0.2%	0.4%	0.3%	0.1%
(E) その他	1.3%	2.2%	1.4%	1.8%	1.5%

出所：欧州視聴覚研究所（OEA）2013年5月7日付け[発表](#)

注1：2012年は暫定値。(A)～(E)の合計が必ずしも100%でないのは小数点の扱いによるものと思われる。

注2：欧州視聴覚研究所（OEA）は映画の製作国・地域を、特に国際共同製作の場合1つに断定するのは困難とした上で、「主に出資し、かつ/あるいは製作上の主導権を持った」国・地域と定義。

注3：出所の図表には明記が無いが、英国の出資比率が米国を上回る、英米による共同製作映画「007 スカイフォール」が本文において(B)ではなく(C)に分類されていることから、(B)からは欧州側の出資比率が他国・地域を下回る共同製作が除かれていると思われる。

注4：出所の図表では「EU」と記載されているが、出所の本文では「欧州」と記載されているため「欧州」へ統一。(B)を除く。仏英伊独の比率は(C)の内数であり、(C)を100%としたものではない。

### 1-4-3 フランス映画「最強のふたり」が国外でも大健闘

「007 スカイフォール」以外に2012年、EUでの観客動員数で上位20本に入った欧州映画は2本だった(図表4参照)。その1本目は、6位に入ったフランス映画「最強のふたり」であり、フランス映画市場で過去最高級の商業的成功を収め、観客動員数は2011～2012年に2,400万人と、「タイタニック」のそれに接近した。さらにこの映画は多くのEU諸国で観客動員数の上位に入った(ドイツとオランダで1位、ポーランドで3位、イタリアとスペインで4位)。フランスを除くEUで観客動員数が1,850万人に達したこと、欧州における観客動員数の46%をフランス国外で取得したことは、フランスのコメディ映画としては異例であった。2本目はEUでの観客動員数で17位入りしたフランス映画「96時間 リベンジ」で、英語で製作された。

同様に英語で製作されたスペイン映画「インポッシブル」は、主にスペイン国内での記録的成功が牽引して2012年、EUでの観客動員数において26位、欧州映画に限れば4位となった（図表5参照）。



図表 4 : EU で観客動員数の多かった映画上位 20 本 (2012 年)

順位	原題	邦題	製作国・地域 (注 2)	製作年	観客動員数
1	Skyfall	007 スカイフォール	英/米	2012	44,380,274
2	Ice Age:Continental Drift	アイス・エイジ 4 パイレーツ大冒険	米	2012	31,452,632
3	The Dark Knight Rises	ダークナイト ライジング	米/英	2012	26,205,161
4	The Twilight Saga:Breaking Dawn - Part 2	トワイライト・サーガ ブレイキング・ドーン Part2	米	2012	25,156,767
5	The Hobbit: An Unexpected Journey	ホビット 思いがけない冒険	米/NZ	2012	24,312,962
6	Intouchables	最強のふたり	仏	2011	24,067,566
7	The Avengers	アベンジャーズ	米	2012	23,446,375
8	Madagascar 3:Europe's Most Wanted	マダガスカル 3	米	2012	22,246,026
9	Ted	テッド	米	2012	16,943,646
10	Brave	メリダとおそろしの森	米	2012	14,685,368
11	The Amazing Spider-Man	アメイジング・スパイダーマン	米	2012	13,091,299
12	The Hunger Games	ハンガー・ゲーム	米	2012	12,608,164
13	Men in Black 3	メン・イン・ブラック 3	米/UAE	2012	11,871,353
14	Snow White and the Huntsman	スノーホワイト	米	2012	11,838,551
15	American Pie 4	アメリカン・パイパイパイ！完結編 俺たちの同騒会	米	2012	11,662,196
16	Prometheus	プロメテウス	米/英	2012	11,278,496
17	Taken 2	96 時間 リベンジ	仏	2012	10,433,730
18	Sherlock Holmes: A Game of Shadows	シャーロック・ホームズ シャドウ ゲーム	米	2011	9,141,411
19	The Dictator	ディクテーター 身元不明でニューヨーク	米	2012	7,573,300
20	The Expendables 2	エクスペンダブルズ 2	米	2012	7,510,045

出所：欧州視聴覚研究所 (OEA) 2013 年 5 月 7 日付け [発表](#)

注 1：暫定値

注 2：出所には明記がないが、共同製作の場合、より高い出資率かつ/あるいは製作上の主導権を持った方を斜線 (/) の左側に示していると思われる。

図表 5 : EU で観客動員数が多かった欧州映画上位 20 本 (2012 年)

順位	原題	邦題	製作国・地域 (注 3)	製作年	観客動員数
1	Skyfall	007 スカイフォール	英/米	2012	44,380,274
2	Intouchables	最強のふたり	仏	2011	24,067,566
3	Taken 2	96 時間 リベンジ	仏	2012	10,433,730
4	Lo imposible	インポッシブル	西	2012	6,515,934
5	The Piraetes! Band of Misfits	ザ・パイレーツ! バンド・オブ・ミスフィッツ	英/米 (注 2)	2012	5,804,395
6	Sur la piste du Marsupilami	マルスピラミの跡を追って	仏/ベルギー	2012	5,715,495
7	Astérix et Obélix: Au Service de Sa Maesté	アステリックスの冒険～秘薬を守る戦い	仏/西/伊/リトアニア	2012	5,550,734
8	The Iron Lady	マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙	英/仏	2011	5,504,082
9	The Best Exotic Marigold Hotel	マリーゴールド・ホテルで会いましょう	英/米/ウクライナ (注 2)	2011	5,497,182
10	The Artist	アーティスト	仏/ベルギー	2011	5,295,934
11	The Woman in Black	ウーマン・イン・ブラック 亡霊の館	英/米/スウェーデン (注 2)	2012	4,852,536
12	La vérité si je mens! 3	原色パリ凶鑑 3	仏	2012	4,745,006
13	Benvenuti al Nord		伊	2012	4,288,827
14	Le prénom		仏	2012	3,721,742
15	Les seigneurs		仏	2012	2,831,517
16	Tad l' explorateur: A la recherché de la Cité perdu		西	2012	2,718,401
17	Les infidels	プレイヤー	仏	2012	2,674,232
18	Türkisch für Anfänger		デンマーク	2012	2,612,443
19	Rust And Bone	君と歩く世界	仏/ベルギー	2012	2,311,812
20	Resident Evil: Retribution	バイオハザードV リトリビューション	デンマーク/加/米	2012	2,265,096

出所：欧州視聴覚研究所 (OEA) 2013 年 5 月 7 日付け [発表](#)

注1：暫定値

注2：米国資本を投じ欧州で共同製作された映画

注3：出所には明記がないが、共同製作の場合、より高い出資率かつ/あるいは製作上の主導権を持った方を斜線 (/) の左側に示していると思われる。

### 1-5 2012年、EUの主要製作国の大部分で平均製作予算が減少

欧州視聴覚研究所（OEA）の2013年5月7日付け[発表](#)によれば、EUでは2011年、1,336本の映画が製作された。2012年には1,299本と前年を37本下回ったが、これは主にドキュメンタリー映画の製作数が10%減少したことによる。2012年には多数の長編映画が製作され、フィクション映画が増加した。

映画製作への投資についても、2011年との比較で2012年には構造的な変化があった。スペイン、フランスといった主要製作国の大部分で平均製作予算が減少し、英国などでは出費総額が大幅に減少した。主要製作国の中には、自国内で製作予算が非常に多いか少ないという両極現象がみられた国も複数あった。また、公的予算の減少に伴い国内投資が減少する中で映画製作活動を継続するため、国際共同製作が増加した。フランスの2012年の国際共同製作の実績については、[ジェトロウェブサイト](#)参照。

### 1-6 映画館スクリーンのデジタル化は最終段階入り、最多はフランス

同じく欧州視聴覚研究所（OEA）の2013年5月7日付け[発表](#)によると、2012年にEUにおける映画館のスクリーンの74%がデジタル化され、映画館のデジタル化は最終段階に入った。2012年末でデジタルスクリーン数は2万1,693に達した（前年比36%増）。

デジタル化の進捗を国別にみると、ルクセンブルク、オーストリア、ベルギー、フィンランドではデジタル化が完全に、もしくはほぼ終了した。リトアニア、ギリシャ、スロベニアは遅れを取り、全スクリーン数にデジタルスクリーン数が占める割合（以下、「デジタル率」）は25%を下回った。

EUでデジタルスクリーン数が多い上位5カ国は図表6のとおり。但しその中でもドイツ、イタリア、スペインは、デジタル率では欧州平均の74%を下回った。

図表6：EUでデジタルスクリーン数の多い5カ国（2012年）

順位	国	デジタルスクリーン数	全スクリーン数にデジタルスクリーン数が占める割合
1	仏	5,150	92%
2	英	3,538	93%
3	独	3,134	68%
4	伊	2,112	65%
5	西	1,800	45%

出所：欧州視聴覚研究所（OEA）の2013年5月7日付け[発表](#)

## 2 フランスにおける映画市場の動向

### 2-1 2013年、フランスの観客動員数は前年比5.3%減

フランス国立映画センター（CNC）の2014年1月3日の発表によると、2013年12月のフランスにおける観客動員数は2,230万人、前年同月比で19.4%の大幅増となった。しかし2013年通年では、前年比5.3%減の1億9,279万人にとどまった（図表7参照）。

図表7：フランスの月別映画館観客動員数

（単位：百万人）

月	2012年	2013年	2013年の 前年同月比
1月	16.16	14.57	-9.9%
2月	17.58	14.41	-18.0%
3月	16.40	19.12	+16.6%
4月	20.92	16.56	-20.8%
5月	16.26	17.21	+5.8%
6月	14.53	13.83	-4.8%
7月	16.98	13.61	-19.8%
8月	14.08	14.87	+5.6%
9月	11.13	10.21	-8.3%
10月	18.06	17.61	-2.5%
11月	22.77	18.50	-18.8%
12月	18.69	22.30	+19.4%
通年	203.56	192.79	-5.3%

出所：フランス国立映画センター（CNC）2014年1月3日付け発表

注：2013年は暫定値

#### 2-1-1 2013年、観客動員数に占める割合で米国映画がフランス映画に大差

フランスにおけるフランス映画の観客動員数は6,419万人で、全観客動員数に占める割合は2013年には33.3%と過去10年で最低であった（図表8参照）。

他方、米国映画の観客動員数は1億389万人で、全観客動員数に占める割合は2012年の42.7%から2013年は53.9%へ拡大。フランス映画を大きく引き離した。

その他の映画の観客動員数は2,472万人で、全体に占める比率は2012年の17.0%から2013年には12.8%へ減少した。

図表8：フランスにおける製作国籍別 市場占有率（観客動員数ベース）

単位：%

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
仏	38.4	36.6	44.6	36.5	45.4	36.8	35.7	40.9	40.3	33.3
米	47.8	45.8	44.2	49.1	43.3	49.7	47.6	45.8	42.7	53.9
その他	13.8	17.6	11.2	14.4	11.3	13.5	16.7	13.2	17.0	12.8

出所：フランス国立映画センター（CNC）2014年1月3日付け発表

注：2013年は暫定値

## 2-1-2 2013 年、フランスで 500 万人以上を動員した大ヒット映画はなし

2013 年の特徴は、製作国籍を問わずフランスで大成功を収めた映画が無かったことだ。2004 年以降初めて、観客動員数が 500 万人を超えた映画がなかった（図表 9 参照）。

フランス映画の状況は厳しく、2013 年にフランスで 300 万人以上を動員したのは僅か 1 本（前年比 3 本減）、200 万人以上は 3 本（5 本減）、100 万人以上は 16 本（6 本減）、50 万人以上は 30 本（7 本減）だった。

米国映画については、2013 年にフランスで 300 万人以上を動員したのは前年と同じ 6 本だったが、200 万人以上は 15 本（前年比 6 本増）、100 万人以上は 35 本（7 本増）と、過去 10 年で最高だった。50 万人以上は 51 本で、2012 年の 49 本とほぼ同水準だった。

図表 9：フランスにおける観客動員数別 映画の数

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
500 万人以上	4	2	4	6	2	4	3	4	3	0
フランス映画	1	0	2	1	2	1	1	2	1	0
米国映画	2	1	2	4	0	2	1	1	1	0
300 万人以上	9	7	10	8	10	10	17	9	12	8
フランス映画	4	1	7	2	2	3	5	2	4	1
米国映画	4	4	3	5	7	6	10	4	6	6
200 万人以上	21	18	18	14	14	21	26	20	20	19
100 万人以上	51	46	43	40	45	53	51	53	54	53
50 万人以上	94	89	96	77	95	101	95	111	95	87

出所：フランス国立映画センター（CNC）2014 年 1 月 3 日付け発表

注：2013 年は暫定値。「500 万人以上」「300 万人以上」の下にあるフランス映画、米国映画は、各々の内数。

## 2-2 2013 年にフランスで製作された映画は 270 本、減少するも高水準を維持

国立映画センター（CNC）の 2014 年 1 月 22 日付け発表によると、2013 年にフランスで製作された映画は 270 本と、前年を 9 本下回ったが高水準を維持した（図表 10 参照）。

### 2-2-1 2013 年のフランス主導映画、製作本数は横ばい、投資額は減少

2013 年にフランスで製作された映画のうち、フランスが主導した映画は前年と同じ 209 本であった（図表 10 参照）。

図表 10：フランスで製作された映画の数

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
(A) フランスが主導	167	187	164	185	196	182	203	207	209	209
100%フランス映画	130	126	127	133	145	137	143	152	150	154
外国との共同製作	37	61	37	52	51	45	60	55	59	55
(B) 外国がより高率で出資	36	53	39	43	44	48	58	65	70	61
(A) + (B) 合計	203	240	203	228	240	230	261	272	279	270

出所：国立映画センター（CNC）2014 年 1 月 22 日付け発表

これらの映画への投資総額は2012年比4.3%減の10億2,018万ユーロで、2010年以降最低であった(図表11参照)。2013年のフランス主導映画の平均投資額も488万ユーロと、前年の510万ユーロから4.3%減、過去10年間で最低となった。

図表11：フランスで製作された映画への投資総額

単位：百万ユーロ

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
(A)フランスが主導	892.41	933.67	865.04	1,003.63	1,259.20	927.48	1,112.15	1,128.28	1,065.68	1,020.18
フランスからの投資	789.07	837.36	777.02	907.37	1,174.06	851.99	1,018.55	1,010.03	966.95	932.75
外国からの投資	103.34	96.32	88.02	96.26	85.14	75.50	93.60	118.24	98.73	87.43
(B)外国がより高率で出資	156.42	352.46	283.43	197.45	231.26	171.20	326.86	260.76	276.65	225.67
フランスからの投資	30.72	79.62	57.23	44.37	49.70	39.89	71.19	52.89	58.63	49.94
外国からの投資	125.70	272.83	226.21	153.09	181.56	131.32	255.67	207.87	218.02	175.73
(A)+(B)合計	1,048.83	1,286.13	1,148.47	1,201.08	1,490.45	1,098.68	1,439.01	1,389.03	1,342.33	1,245.85

出所：国立映画センター（CNC）2014年1月22日付け[発表](#)

フランスが主導した映画の数を投資額別にみると、巨額なものと同額なものが減少したため両極現象が緩和された。例えば、投資額が1,000万ユーロ以上のフランス主導映画は2012年に33本であったのが2013年には19本へ減少した(図表12参照)。

図表12：投資額別 フランスで製作されたフランス主導映画の数

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
1,500万€以上	9	12	9	12	18	11	12	12	18	12
1,000万€以上 1,500万€未満	15	10	15	16	17	14	16	16	15	7
700万€以上 1,000万€未満	9	17	21	21	25	21	24	24	22	29
500万€以上 700万€未満	33	21	12	20	11	18	30	26	22	17
400万€以上 500万€未満	16	7	7	9	17	9	16	12	3	11
200万€以上 400万€未満	32	46	37	43	41	45	47	41	46	47
100万€以上 200万€未満	33	33	35	29	23	36	18	29	25	32
100万€未満	20	41	28	35	44	28	40	47	58	54
合計	167	187	164	185	196	182	203	207	209	209

出所：国立映画センター（CNC）2014年1月22日付け[発表](#)

## 2-2-2 2013年、フランスにおける外国との共同製作映画は13本減少

前述のとおりフランスでは2013年、映画の製作本数が前年と比べ9本減少したが、これには外国との共同製作映画が116本と、前年から13本減少したことが響いた。

外国資本がより高率で出資した映画の2013年の製作本数は61本と、前年から9本減ったが、比較的高水準にとどまった（図表10参照）。外国資本がより高率で出資した映画への2013年の投資額は、前年比18.4%減の2億2,567万ユーロとなった（図表11参照）。

## 2-3 2013年、フランスの映画館スクリーン数の96.2%がデジタル化

国立映画センター（CNC）の2014年1月10日付け[発表](#)によると、2013年12月までにフランスの映画館の現役スクリーンの96.2%に当たる5,472枚がデジタル化された。これらのデジタルスクリーンは、デジタル映画館として定評のある1,921の映画館に集約した。

デジタルスクリーンを1枚以上所有する映画館の数が全体に占める割合は、2012年12月には80.8%、2013年9月には90.7%、2013年12月には92.5%と短期間で順調に伸びた。2013年12月時点で完全にデジタル化された映画館の数は1,892、3D上映施設を設置した映画館は1,187だった。

## 2-4 クリスマス休暇には観客数に占める子供連れ世帯の割合が増加

国立映画センター（CNC）の2014年1月10日付け[発表](#)によると、2013年12月にフランスの映画館に入場した観客を年齢別にみると、25歳未満は43.3%（図表13参照）と11月の38.5%から4.8ポイント増加した。

観客を世帯別にみると、クリスマス休暇のある12月に子供が1人以上いる世帯が入場した割合は全世帯の4割を超えた。同年11月から5ポイント増えており、学校休暇との連関が示された。

非就労者の割合は11月も12月も50.2%と一定であったが、就労者のうち「経営者、管理職、中間職」の12月の割合は11月から4.6ポイント減少した。

12月の不定期客の割合は一時的に50～51%に達したが、「アナと雪の女王」（12月4日公開）および「ホビットの冒険」（12月11日公開）の公開と関連があると分析されている。12月全体での不定期客の割合は35.3%（11月の35.5%から横ばい）、常連客の割合は14.6%（11月から2.5ポイント減）であった。

図表13：フランスにおける12月の映画館の観客の構成

単位：%

	2013年12月	2012年12月
性別		
男	51.4	51.8
女	48.6	48.2
年齢		
子供（3-14歳）	21.9	19.0
若年層（15-24歳）	21.4	24.5
大人（25-49歳）	33.7	36.7

年長者（50歳以上）	23.2	19.8
職業		
経営者、管理職、中間職（注）	24.7	25.9
非管理職、工員	19.9	22.2
非就労者（生徒、学生、退職者など）	50.2	51.9
居住地		
パリ首都圏	23.6	23.4
地方	71.3	76.6
世帯における子供の数		
0人	59.5	64.7
1人	15.2	15.9
2人	14.3	15.2
3人	4.1	3.5
4人	1.8	0.6
映画鑑賞の頻度		
常連	14.6	13.2
定期	45.0	50.0
不定期	35.3	36.8

出所：国立映画センター（CNC）の2014年1月10日付け[発表](#)

注：国立統計経済研究所（INSEE）による新分類。管理職と非管理職の中間的な位置を占める職種、および教育・健康・社会事業に係る職種。

## 2-5 2013年、日本映画としては「キャプテンハーロック」が健闘

2012-2013年にフランスで公開された日本映画の中では、「コクリコ坂から」、「キャプテンハーロック-Space Pirate Captain Harlock-」、および2013年の第66回カンヌ映画祭で審査員賞を受賞した「そして父になる」が健闘した（図表14）。

図表14：2012-2013年にフランスで公開された主な日本映画とその観客動員数

公開年月日	邦題	仏題	仏配給会社	観客動員数
2012.01.11	★コクリコ坂から	La Colline aux Coquelicots	The Walt Disney Company France	409,766
2012.05.09	さや侍	Saya zamurai	Urban DISTRIBUTION	6,982
2012.08.29	★おおかみこどもの雨と雪	Les Enfants loups, Ame et Yuki	Eurozoom	169,383
2012.09.26	★チベット犬物語	Le chien du Tibet	Gebeka Films	36,016
2012.10.10	ライク・サムワン・イン・ラブ	Like Someone in Love	MK2 Diffusion	46,089
2013.05.15	★ONE PIECE FILM Z-ワンピースフィルム ゼット-	One Piece Film Z	Eurozoom	54,532
2013.05.29	贖罪	Shokuzai (前半)	Version Originale, Condor	84,745



2013.06.05		ShokuzaiII (後半)	Version Originale, Condor	57,391
2013.09.25	★ももへの手紙	Lettre à Momo	Les Films du Préau	62,511
2013.10.30	★放課後ミットナイ ターズ	—	Eurzooom	—
2013.12.25	そして父になる	tel père tel fils	Le Pacte	387,060
2013.12.25	★キャプテンハーロ ック-SPACE PIRATE CAPTAIN HARLOCK-	Albator, Corsaire de l'Espace	Océan Films	724,788

出所：公開日と観客動員数（公開日～2014年3月27日）はJP's BOXOFFICEのサイト。  
 仏配給会社はALLOCINEのサイト。  
 注：★マーク付きはアニメーション。

図表 15: 日本映画もしくはアジア映画の取り扱い実績があるフランスの配給会社の例  
 (アルファベット順)

会社	日本もしくはアジアの映画の配給実績
Acacia Film Productions	「人間蒸発」(今村昌平監督)
Ad Vitam	「アカルイミライ」(黒沢清監督)
	「ドールズ」(北野武監督)
	「ユキとニナ」
ARP Sélection ※ <a href="http://www.jetro.go.jp/world/europe/fr/contents/trends/1310002.html">http://www.jetro.go.jp/world/europe/fr/contents/trends/1310002.html</a> 参照	「誰も知らない」(是枝裕和監督)
	「トウキョウソナタ」(黒沢清監督)
ASC Distribution	韓国ホン・サンス監督(実写)の初期作品配給
	「名前のない森」(青山真治監督)
Bac Films	★「白蛇伝」(1958、東映)を2004年に配給
	★「太陽の王子 ホルスの大冒険」(1968、東映)を2004年に配給
	★「インターステラ 5555」(東映、2003)、
	★「アンネの日記」(1995、東宝)
Blaq Out	「実録・連合赤軍 あさま山荘への道程」
Carlotta Films	★スタジオジブリの前身であるトップクラフトが参加した米・英・独・日 合作アニメ「最後のユニコーン」(1982)を2013年に配給
	「東京物語」「父ありき」(ともに小津安二郎監督)
	「日本の夜と霧」(大島渚監督)
Celluloid Dreams	「トニー滝谷」
	「稀人(まれびと)」
	「東京の合唱」(小津安二郎監督)
Cinéma Public Films CTV	★「庭を出ためんどり」(2011、韓国)
	「キャシャーン」(2004、松竹、アニメ原作の実写映画)
	★「人狼」(2000、バンダイビジュアル)

diaphana	「Secret Sunshine」 「母なる証明」 など韓国映画。
Editions Montparnasse	★「千年狐ヨウビ」 (2007、韓国) ★「マイ・ライフ・アズ・マクダル」 (2001、香港) ★「老人と海」 (1999、露・加・日合作) ★「マリといた夏」 (2002、韓国)
E. D. Distribution	「非行少女 キャタピラー」
Eurozoom	★「放課後ミッドナイト」 (2012、ティジョイ) ★「グスコブドリの伝記」 (2012、ワーナー) ★「ワンピース フィルムゼット」 (2012、東映) ★「おおかみこどもの雨と雪」 (2012、東宝) ★「カラフル」 (2010、東宝) ★「ワンピース フィルム ストロングワールド」 (2009、東映) ★「サマーウォーズ」 (2009、ワーナー) ★「映画! たまごっち うちゅーいちハッピーな物語!？」 (2008、東宝) 「20世紀少年 最後の希望」 (2009、東宝) ★「ピアノの森」 (2007、松竹) 「20世紀少年〈第1章〉終わりの始まり」 (2008、東宝) ★「河童のクゥと夏休み」 (2007、松竹) 「さくらん」 (2007、アスミック・エース、漫画原作の実写映画) ★「真救世主伝説 北斗の拳 ラオウ伝 殉愛の章」 (2006、東宝) ★「ブレイブ・ストーリー」 (2006、ワーナー) 「デスノート the Last name」 (2006、ワーナー、漫画原作の実写映画) 「SHINOBI-忍」 (2005、松竹、漫画原作の実写映画) ★「時をかける少女」 (2006、角川) ★「銀色の髪のアギト」 (2006、松竹) ★「アップルシード」 (2004、デジタル・フロンティア)
Films Sans Frontières	「羅生門」 (黒澤明監督) 「雨月物語」 「近松物語」 (ともに溝口健二監督)
Gaumont	★「サイボーグ 009」 (1966、1967、東映) を 1968 年に配給
Gebaka Films	「こまねこのクリスマス～迷子になったプレゼント～」 (2009、Dwarf) ★「チベット犬物語」 (2012、Madhouse、日・中合作) 「チェブラーシカ」 (2010、東宝) ★「よなよなペンギン」 (2009、松竹、日・仏・タイ合作) ★「パンダコパンダ 雨ふりサーカスの巻」 (1973、A-Production、宮崎駿氏脚本) を 2009 年に配給 「こまねこ」 (2006、Dwarf) ★「太陽の王子 ホルスの大冒険」 (1968、東映) を 2005 年を配給 ★「白蛇伝」 (1958、東映) を 2005 年に配給 ★「じゃりんこチエ」 (1981、東宝) を 2005 年を配給 ★「マリといた夏」 (2002、韓国) ★「老人と海」 (1999、露・加・日合作) ★「となりのトトロ」 (1988、ジブリ/東宝) を 1999 年に配給
Haut et Court	「殞の森」 (河瀬直美監督)
KMBO	★中国短編アニメ
Les Films du	★「冬の日」 (2003、クロックワークス)

Paradoxe	★手塚治虫の短編・中編を2002、2005年に配給
	中国短編
	★「つるにのって とも子の冒険」(1993、虫プロ)を2004年に配給
	★「ゼロ弾きのゴーシュ」(1982、オープロダクション、高畑勲監督)を2001年に配給
	★「火垂るの墓」(1988、東宝)を1996年に配給 「ナー ज्याの村」
Les Films du Préau	★「ももへの手紙」(2012、角川)
	★「La boîte à malice(トリックの箱)」(2011、山村浩二氏)
	★中国短編アニメ
	★「五歳庵」(2003、韓国)
Memento Films ※国際セールス	「朱花の月」(河瀬直美監督)
Metropolitan Film export	★「パーフェクトブルー」(1998、レックスエンタテイメント)
	★「攻殻機動隊」(1995、Production I.G、日米合作)
	「怪談」「叫び」「輪廻」「着信アリ」などのホラー映画
MK2	★「劇場版 NARUTO-ナルト-疾風伝 火の意志を継ぐ者」(2009、東宝)
Océan Films	★「キャプテンハーロック-Space Pirate Captain Harlock」(2013、東映)
	「空気人形」(2009、アスミック・エース、是枝裕和監督)
	「アキレスと亀」(北野武監督)
	★「ホーホケキョとなりの山田くん」(1999、ジブリ/松竹)
Paramount Pictures France	★「GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊」
Pathé	★「ワンダフルデイズ」(2003、韓国)
Pretty Pictures	★「マイ・ライフ・アズ・マクダル」(2001、香港)
	「ゴジラ FINAL WARS」
	「ノルウェイの森」
Pyramid Distribution	「赤い橋の下のぬるい水」(今村昌平監督)
	「歩いても 歩いても」(是枝裕和監督)
	「埋もれ木」(小栗康平監督)
Rezo Films	★「パプリカ」
	★「鉄コン筋クリート」
	「一命」(三池崇史監督)
SND	「ATOM」(2009、漫画「鉄腕アトム」が原作、日米香による合作)
Sony Pictures France (旧 Columbia Tristar)	★「スチームボーイ」(2004、東宝)
	★「カウボーイビバップ 天国の扉」(2001)
	★「メトロポリス」(2001、東宝)
	「ファイナルファンタジー」(2001、日米合作)
StudioCanal	★「アーチ&シパック-世界ウンコ大戦争」(2006、韓国)
	★「紅の豚」(1996、ジブリ/東宝)
UGC Distribution (旧 TFM Distribution)	★「紅の豚」(1995、ジブリ/東宝)
	★「哀しみのベラドンナ」(1973、虫プロ/日本ヘラルド)を1975年に配給
Walt Disney	★「思い出のマーニー」(2014、ジブリ/東宝)未公開

Studio Motion Pictures France	★「かぐや姫の物語」 (2013、ジブリ/東宝) 未公開
	★「風立ちぬ」 (2013、ジブリ/東宝)
	★「コクリコ坂から」 (2011、ジブリ/東宝)
	★「借りぐらしのアリエッティ」 (2010、ジブリ/東宝)
	★「崖の上のポニョ」 (2008、ジブリ/東宝)
	★「ゲド戦記」 (2006、ジブリ/東宝)
	★「風の谷のナウシカ」 (1984、東映) を 2004 年に配給
	★「平成狸合戦ぽんぽこ」 (1994、ジブリ)
	★「ハウルの動く城」 (2004、ジブリ/東宝)
	★「魔女の宅急便」 (1989、ジブリ/東宝) を 2004 年に配給
	★「猫の恩返し」 (2002、ジブリ/東宝)
	★「天空の城ラピュタ」 (1986、ジブリ/東宝) を 2003 年に配給
	★「千と千尋の神隠し」 (2001、ジブリ/東宝)
	★「もののけ姫」 (1997、ジブリ/東宝)
	★「耳をすませば」 (1995、ジブリ/東宝)
Warner Bros Entertainment France	★「遊☆戯☆王デュエルモンスターズ 光のピラミッド」 (2005、TV 東京)
	★「劇場版ポケットモンスター 結晶塔の帝王 ENTEI」 (2000、東宝)
	★「劇場版ポケットモンスター 幻のポケモン ルギア爆誕」 (1999、東宝)
	★「劇場版ポケットモンスター ミュウツーの逆襲」 (1998、東宝)
Wild Bunch ※ 国際配給、 <a href="http://www.jetro.go.jp/world/europe/fr/contents/trends/1310001.html">http://www.jetro.go.jp/world/europe/fr/contents/trends/1310001.html</a> 参照	★スタジオジブリ作品 (「となりのトトロ」、「千と千尋の神隠し」、「崖の上のポニョ」、「コクリコ坂から」など)
	「ユリイカ」 (青山真治監督)
	「そして父になる」 (是枝裕和監督)
Wild Side Films	「悪い奴ほどよく眠る」 (黒澤明監督)
Zootrope	「LOFT ロフト」 (黒沢清監督)
	「清作の妻」
9ème Dimension	「エヴァンゲリオン新劇場版:序」

出所：各社サイトおよびフランスのアニメ雑誌「アニメランド」サイトをもとに作成。

注：★マーク付きはアニメーション。

フランス以外の欧州における日本映画配給会社リストは「[フランスを中心とする欧州のコンテンツ市場調査 \(2011-2012\) \(映画編\)](#)」29 ページ、図表 22 参照。

図表 16: フランスの主な映画見本市

<p><b>クレルモン＝フェラン・ショートフィルム・マーケット</b>            クレルモン＝フェラン短編映画祭に併設。            日時：2014 年 1 月 31-2 月 8 日            開催地：クレルモン・フェラン            ウェブサイト：<a href="http://www.clermont-filmfest.com/">http://www.clermont-filmfest.com/</a></p>
<p><b>カンヌ・フィルム・マーケット</b>            カンヌ映画祭に併設。            日時：2014 年 05 月 14-23 日            場所：カンヌ            ウェブサイト：<a href="http://www.marchedufilm.com/fr">http://www.marchedufilm.com/fr</a></p>

**国際アニメーション映画マーケット (MIFA)**

アヌシー国際アニメーション映画祭 (FIFA) に併設。

日時：2014年6月11-13日

場所：アヌシー

ウェブサイト：<http://www.annecy.org/>

※2013年の開催については[ジェトロウェブサイト](#)参照。

アンケート返送先: <FAX> 03-5572-7044

e-mail: CID@jetro.go.jp

日本貿易振興機構 生活文化・サービス産業部 コンテンツ産業課宛

● ジェトロアンケート ●

調査タイトル: フランスを中心とする欧州のコンテンツ市場調査 (2013年) 映画編

ジェトロが実施した標記調査報告書をお読みになった感想について、是非アンケートにご協力をお願い致します。今後の調査テーマ選定などの参考にさせていただきます。

■質問1: 今回、本報告書での内容について、どのように思われましたでしょうか?  
(○をひとつ)

4:役に立った 3:まあ役に立った 2:あまり役に立たなかった 1:役に立たなかった

■質問2: ①使用用途、②上記のように判断された理由、③その他、本報告書に関するご感想をご記入下さい。

■質問3: 今後のジェトロの調査テーマについてご希望等がございましたら、ご記入願います。

■お客様の会社名等をご記入ください。(任意記入)

ご所属	<input type="checkbox"/> 企業・団体	会社・団体名
		部署名
	<input type="checkbox"/> 個人	会社・団体名
		部署名

※ご提供頂いたお客様の情報については、ジェトロ個人情報保護方針 (<http://www.jetro.go.jp/privacy/>) に基づき、適正に管理運用させていただきます。また、上記のアンケートにご記載いただいた内容については、ジェトロの事業活動の評価及び業務改善、事業フォローアップのために利用いたします。

～ご協力有難うございました～